

横浜国際総合競技場ボランティアだより

INTERNATIONAL
STADIUM
YOKOHAMA

ボランチわ

ボランチ【ポルトガル語で舵とり】わ【輪、和】を意味します

創刊号

2000年

7月15日発行

夏号(季刊)

Vol.1

INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM
YOKOHAMA YOKOHAMA YOKOHAMA YOKOHAMA YOKOHAMA YOKOHAMA

『ボランティアの原点』

スポーツ・イベントでボランティアの活動を見たのは1978年6月ゴルフの全米オープンを初めて生中継するためにコロラド州デンバー市のチェリーヒルズカントリーを訪ねた時だった。ホール間の空き地に放送用の大型トレーラーが数台並び、その一つが私たちの放送室になった。日本へ向けての全米オープンゴルフの中継は初めてとあって、早めに到着した私たちの面倒を見てくれたのがボランティアだった。ゴルフ場周辺の風景を撮影する時もモデルになる家との交渉もしてくれる。ゴルフ場のメンバーとは聞いていたがこれほどまで世話になっていいものかこちらが戸惑うほどだった。彼らはニクラウスもパーマーも出るゴルフを見る暇もない。まさにスタッフのひとり、自分の街デンバーを日本に伝え



るための献身的な協力だった。

そして、1996年、冬のオリンピックを2年後に控えた長野で募ったボランティアの中に72歳の婦人がいた。応募用紙の特技の項には「茶道」とあった。組織委員会の担当者に聞いた話だと「是非、長野に来られた外国選手にお茶を点ててあげたい。苦いかもしれないけれど試合の前に気持ちを静めるのにお役に立ちたい」が動機だった。

対照的な二人のボランティアに共通するのは自分の役割を持っていたことだと思う。与えられた仕事ではなく、何をやりたいか、何をやるかを考える。そして実現するための手段を考える……ボランティアの原点

がここにあった。

横浜国際総合競技場場長

西田善夫

会報発行の主旨について

「こんにちは」「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」ゲートから響く明るく大きな声も、笑顔でチラシを手渡すタイミングもすっかり慣れてきました。ツアーガイドも「数字」や「場所」がインプットされ、流れるように言葉が出てきます。

緊張のうちに活動を開始し早くも1年余りが経過しました。この間に寄せられた意見や要望を今後の活動に生かすため、自主活動の第一歩として、競技場事務局の呼びかけにより、十数名の有志が集まり、会報を発行することになりました。この紙面の中で編集委員を募ります。応募をお待ちしています。

会報の中では、意見の発表や交換の場、ボランティアマナーやスキルアップの紙上研修、事務局や主催者

との交流、2002年W杯サッカーの情報など、活動に関係する様々な記事をわかりやすくお伝えできればと考えています。会報を読まれた皆さんが、1シーズンに数回の限られた仲間との出会いしかなくても、ボランティアが「みんな仲間なんだ」という意識を持っていたいただければ、会報発行の目的は達せられると思います。

参加の動機は百様でしょうが、活動のめざすものが一つになり、21世紀のスポーツボランティアの指針となることをめざして、全員でこの活動を継続していきましょう。競技が終わり、照明が消えて、帰路につくとき「今日も活動して良かったー」としみじみ喜び合えるためにも。

INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM INTERNATIONAL STADIUM
YOKOHAMA YOKOHAMA YOKOHAMA YOKOHAMA YOKOHAMA YOKOHAMA

2002年FIFAワールドカップ°日本・韓国 横浜開催を成功させよう!

【特集 ボランティア研修会報告！！】

去る2月26日、3月4日、26日の3日に渡ってボランティア研修会が行われました。そしてこのうち最終日の3月26日にはボランティアに関するディスカッションが行われ、多くの意見が出されました。

そこで今回から2回に分けて、それらの意見について考えていきたいと思えます。

まず、第1回目の今回は、運営ボランティアに関する意見を取り上げてみました（一部、当方の主観的な意見が入ってしまっているものがありますが、ご了承ください）。



Jリーグの試合で活動する運営ボランティア

1 配置に関する意見

この意見が最も多かったと思えます。研修会の中で出た意見をまとめて運営方法の一例を考えてみると、

まず情報伝達の効率化のため、予め分割された各セクションごとにリーダー、サブリーダーを配置する。（この人達は、従来通り4時間前に来場し、主催者等と配置などの話し合いをする）そしてここでは、今現在の出席予定者を「当日の天候」「試合を行う両チームの順位と過去のその試合の入場者数」などを考慮したうえで、最終的な人数配分を考える。

他のボランティアは、3時間前に集合する。（なお活動案内の連絡や出欠確認は、そのセクションのリーダーによってすでに行われている）そして、リーダーはメンバーの出欠状況を主催者側に報告した後に最終的なミーティングに参加し、人数の微調整を行う。

このような流れなどが考えられますが、この運営方法を実行に移すとなると、前段でボランティアの協力体制をしっかりとしたものにするのが望まれます。

2 連絡網の作成に関する意見

次に多かったのがこの意見で、ボランティア間での「情報交換をしたい」というのが理由のようです。しかし中には自分の個人情報を公表したくない方もいると思うので、まずは希望者に限って記入、配布をするような形がとれば、いいのではないかと思います。またここには、急な要請に対する可否についても記入する欄を設けてはどうでしょうか。

3 活動の満足感・充実感についての意見

ボランティア活動を行ううえでは、大きな要因だと思います。これについては、ボランティア活動をみんな考え、行動することにより、多くの方々が活動の充実感・満足感を得られるようにすることができるものではないかと思えます。

4 出席率の公表についての意見

「出席率を公表すれば、当日キャンセルをする人に対してプレッシャーになるだろう」という意見も見受けられました。だが、よく考えてみると、私達はこのボランティア活動に参加するにあたり、何らかの動機を持って申込書を郵便ポストに投函したと思えます。過去の活動状況を振り返ると、私達が想像したような充実感や満足感は得られていない方がいるかもしれません。一度失ったやる気や情熱を取り戻すには同じ目的を持ったボランティアの仲間の協力が必要だと思います。あまり顔を出さないボランティアに対しては、かつて活動をともにした仲間である方が連絡網などを使って積極的に働きかけるなどしてボランティア活動を支え合っていくことが大切だと思います。

5 競技場知識についての意見

運営ボランティアの方にとっては、なかなか競技場や全体や特徴を見渡す機会がないことと思えます。そこで、提案です。**見学ツアーに参加されてはどうでしょうか。**お互いの持っている知識を提供し合えば、新しい発見ができるかもしれません。



スタジアム見学ツアーの様子

以上がグループ討議において出された運営ボランティア側からの意見で提案を集約したものです。報告書を読むとボランティア活動に対する熱意がひしひしと伝わってきました。細かい意見もありましたが、紙面の都合上今回は、そのうち多かった5つの意見について考察を行いました。

次回は、見学側の意見と両ボランティアに関する意見について取り上げていく予定です。（編集部）

「ボランティア活動を体験して」

中村 香

「いらっしゃいませ」普段聞きなれているこの言葉も、いざ自分が言う立場になるとなかなかうまく言う事ができない。なぜだろう？これが初めて活動した日の感想でした。お客様と目が合う度にドキッ。積極的に自分から声を掛けることも出来ず、人と接する難しさを実感しました。しかし、同じ配置になったボランティアの人達に助けってもらったり、何度か経験を重ねていくうちに度胸もつき、いつの間にか大きな声が出せる自分に変わっていました。私の会社はOA化が進み、人と人との関わりが薄れつつある環境にあります。ですから直接人と触れ合える場所があるというのは、私にとってとても貴重なものです。また、競技場に来られる人達の嬉しそうな表情を見てみると、自分自身も楽しい気持ちになり、元気が出ます。ああ、ボランティアに参加してよかったなあ、と思える時です。ただ、問題もありまして・・・それは、背後から聞こえてくる歓声に反応してしまうこと。この時ばかりはサポーターに戻ってしまい、まだまだボランティア精神が不足していると反省しています。活動を通じて学んだこと、人との出会い、これらを大事にして、今後の活動に生活に役立てていきたいと思っています。

「ボランティア～活力のある人の集まり」

浜野 正男

地元の小学生を中心にトップチームまで200名近くの会員で組織するクラブチームで、私がサッカーのコーチをして今年で21年目を迎える。10周年の折、当時IOC委員の岡野俊一郎氏に講演を依頼した。私にはその時の岡野氏の言葉が今でも強烈な印象とともに残っている。「若者の活力はその時代の、その国の活力の指標として見る事が出来る。東京オリンピックの日本の金メダリストたちは大半が大学生を主とした若者層であり、その後の日本の高度経済成長を支えた活力の源となった年齢層でもあった。その意味では、ソウルオリンピックでの5個の金メダルは、10年後さらには21世紀における日本の繁栄を考えると、非常に憂えるべき現象である。」あれから10年間、岡野氏の危惧が現実化したことは「さまざまな社会問題」に見ることが出来る。個人の幸福追求に熱心なあまり、対話も助け合いもなく、心を閉ざしてしまっている今の地域社会にあって、自らの意思でボランティアに参加する人たちは「活力」のある人たちである。そしてその「活力」は今の時代にはなくてはならない、大切なものである。「日曜日や祭日にボランティアで子供たちにサッカーを指導する。本来ならやらなくてもいいことを自ら行う人々には頭が下がる思いです。そういう活力を持った人たちの集りをいつまでも続けていってほしい。」10年、20年後の日本を考えると、今の若者層の活力に大いに期待したい。

紙上見学ツアー

このコラムボランティアの方とは少し違った視点でのお話をしたいと思います。

私たちの役割で運営と決定的に違うのは、試合のない競技場を皆さんに見てもらおうということです。運営の方はサッカー等のいわゆるこの競技場の『動』の部分のお手伝いですが、私たちはそれとは対極の『静』のほうに属すると思います。

Jリーグに代表される観客の入ったスタンドを見る機会は私たちには全くありません。しかし、見学者の方々を薄暗い通路から誰もいないスタンドへ誘導して緑の芝生が眩しい静寂の中のピッチを見た瞬間の驚きの声を聞いたとき、このボランティアをやっていて良かったなと思うのです。

この静かな競技場もひとたび試合となれば、熱い大声援のるつぼと化すのですが、ツアーの開催日はガイドの声と見学者の声が競技場全体を支配する、と言っても言い過ぎではないような気がします。

運営の皆さんも試合のときとは違う雰囲気は是非、味わいに来てください。新しい発見があるものと思います。時間によってはこの広いピッチからスプリンクラーが水を撒く音や風力計の回転する音まで聞こえるのですから。

(次号につづく)

OFFSIDE・おふさいし

このコーナーでは、日頃の活動で気をつけたいこと、守るべきことを取り上げていきます。

第1回目のテーマは「休みの連絡」

活動日の割当は活動アンケートにより決定し、活動可能な人が割当てられています。しかし、急用や病気などで参加できないこともあるでしょう。そのような時は次のことを念頭において必ず連絡を入れましょう。

活動日以前に休むことが決まった場合は、

1日でも早く連絡を入れましょう。そうすることにより代替を頼むことができます。

活動日当日に休まなければならない場合は、

1分1秒でも早く連絡を入れましょう。そうすることにより直前での調整がなくなり、スムーズに活動が始められます。

割当てられた人数は当日必要です。自分1人が休むぐらい大丈夫、という考えを持っている人がいるとしたら改めましょう。私たちの活動への信頼を得るためにも守るべきマナーです。

OFFSIDE

① いんぷおーめーしょん

横浜国際総合競技場事務局だより

早いもので競技場ボランティアがスタートして1年余りが経ちました。昨シーズンは、Jリーグ12試合を始め、チビリンピック、スポーツレクリエーションフェスティバル、市民感謝デー、7万人ユースサッカー大会の活動や、スタジアムツアー107日の案内にご協力をいただきました。ありがとうございました。

今年度は、運営ボランティア461名、見学ボランティア55名の皆さんに活動していただいております。競技場を訪れる方々を暖かく迎えるため、引き続きご協力をお願いいたします。

この会報の編集は、3月に実施したステップアップ研修のグループディスカッションにおいて司会や発表を担当された方に、事務局から依頼をして始めました。皆さんの中で会報の編集にご協力いただける方の参加をお待ちしています。

7月、8月のスタジアムツアー開催日(11時 13時 14時 15時 16時 スタート)

7月 12日(水) 15日(土) 16日(日) 19日(水) 20日(祝) 22日(土) 23日(日)

8月 2日(水) 5日(土) 6日(日) 9日(水) 11日(金) 12日(土) 13日(日) 16日(水) 18日(金) 19日(土) 23日(水) 30日(水)

今後のイベントスケジュール

月	日	イベント名
8月	25~27日	関東陸上競技選手権大会
9月	3日	全日本ユースサッカー大会
9月	9日	スーパー陸上競技大会2000横浜
10月	8~9日	スポーツレクリエーションフェスティバル
10月	27~29日	ジュニアオリンピック陸上競技大会
11月	11日	Jリーグ 横浜 vs 市原
11月	12日	JFL 横浜FC vs 北陸
11月	26日	Jリーグ 横浜 vs 福岡

網掛けしてある斜体字の日は、ボランティア活動予定日です。

事務局職員を紹介します。

管理課長 中村 智樹、渉外担当係長 村本 義彦
ボランティア担当 大橋 弘昭、伊丹 絵里です。
12年度もよろしくお願ひいたします。

「真夏の午後の交流会」のお知らせ

多くの仲間の皆様が待望されていたボランティア主催の『交流会』を開催します。青空の下、皆でグラス片手に楽しい思い出や失敗談、今後の活動への抱負などを多いに語り合い、楽しく飲みましょう。夏休み中なのでファミリーの参加も歓迎します。楽しいボールゲームなどのイベントも準備しております。ふるってご参加ください。お手持ちの秘蔵の飲み物や腕自慢のおつまみの持ち込みも大歓迎します。



日時 8月20日(日) 午後1時より3時まで

会場 横浜国際総合競技場西側の小机競技場

雨天の時は競技場305号会議室

会費 大人1,000円 小人500円

申込締切 7月31日(同封申込書を送ってください)

*当日はIDカード及び帽子をご持参ください。

*この交流会の準備委員を募集します。参加申込書にその旨ご記入ください。委員は当日11時に集合です。

編集委員募集

誕生したばかりのヨチヨチ歩きです。これから丈夫で長持ちの楽しい会報に育てていくには皆さんの手助けが欲しいのです。ぜひ力を貸してください。

- 1 イラスト・パソコンの得意な方、取材が得意、得意はないが会報作りに興味がある、そんな意欲のある人たちの参加をお待ちしています。
- 2 あんな話、こんな事、とっておきの情報などなど、みんなの声、ボランティアの声を受け付けております。

連絡・応募先：競技場内「ボランちわ」編集部

編集後記

若い人のパワーも中年のエネルギーもすごかった。「堰を切ったような……」の言葉そのままに編集会議から発行へ一気に繋がられました。原動力になった背景には、ボランティアの皆さんの心に積った一年間の体験と思いが伝わっていたからと思います。

私たちは編集を通して生みの楽しみを味わいました。その一方で競技場の伊丹さんの「試合要員確保」の苦労も知りました。良きボランティア人に近づくためにも会報の役割は大きいと気付きました。

「親睦と啓発」へ、次はあなたの出番です。(佐藤)



【編集委員】原 茂 橋口 正 青木義次 安田十四雄 佐藤大治 末吉邦弘 栗原芳範

田中悦子 栗原 智 江部和夫 関 多鶴子 島田千尋 宮川弘恵 蓬田光雄



編集・発行 / 〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 横浜国際総合競技場内

ボランティア会報誌「ボランちわ」編集部 Tel045(477)5006 Fax045(477)5002